



## 理事長あいさつ

公益財団法人岩手県スポーツ協会  
副会長兼理事長 谷 藤 節 雄

本県スポーツの普及・振興に関わる皆様には、日頃より多大なるご尽力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、本年はミラノ・コルティナ 2026 冬季オリンピック・パラリンピックに始まり、ワールドベースボールクラシック、FIFAワールドカップ等の大会が続きますが、今回はその現状や選手を輩出する環境づくりについて触れてみようと思います。

### 【オリンピック・パラリンピックのメダリスト】

本県関係者のメダリストは下表のとおり、オリンピックが7名9個、パラリンピックが1名2個となっています。

メダル 11 個のうち夏季大会は6、冬季大会は5、2000 年以降は7 個です。金メダル第1号は1992年の三ヶ田礼一さん、第2号の2022年小林陵侑さんが取ったのは30年ぶりのことでした。大会に出場することも大変ですが、更にメダルをとることがいかに難しいかということがわかりいただけると思います。

そのような中、今回のイタリアで小林陵侑選手が銅メダル、自身3個目のメダルを獲得できたことは本当に素晴らしいことです。おめでとうございます。

この会報が発行される頃には、WBCの話題になっていると思いますが、本県ゆかりの選手が活躍していることで喜びが倍増し、大いに盛り上がっていると思います。今年もスポーツの明るい話題が多く提供される1年となることを期待しています。

オリンピックメダリスト (本県関係)					
数	メダル	氏名	年	開催地	競技種目
1	金	三ヶ田 礼一	1992	アルベールビル	スキーコンバインド団体
2		小林 陵侑	2022	北京	スキージャンプ個人ノーマルヒル
3	銀	岩清水 梓	2012	ロンドン	サッカー女子
4		小林 陵侑	2022	北京	スキージャンプ個人ラージヒル
5	銅	八重樫 茂生	1968	メキシコシティ	サッカー
6		工藤 章	1976	モンリオール	レスリングフリー 48kg級
7		高橋 馨	1996	アトランタ	シクロノイズスミシングチーム
8		永井 秀昭	2022	北京	スキーコンバインド団体
9		小林 陵侑	2026	ミラノ・コルティナ	スキージャンプ混合団体
パラリンピックメダリスト (本県関係)					
数	メダル	氏名	年	開催地	競技種目
1	銀	大井 利江	2004	アテネ	陸上競技 円盤投げ
2	銅	大井 利江	2008	北京	陸上競技 円盤投げ

### 【スポーツを支える施設】

昨年、国の「スポーツ基本法」が改正され、スポーツの捉え方が大きく拡充されました。これまでの「する」「見る」「支える」に加え、アリーナに人々が集い、スポーツを通じて交流する「集まる」「つながる」という定義が加えられました。

県営スポーツ施設のあり方については、意見をまとめて報告されていますが、直近では、県営体育館と県勤労身体障がい者体育館を集約した高機能の体育館とスポーツ医・科学センターの

整備を検討することが記されています。県営スポーツ施設としての規模や機能をどのようなものにしていきたいのか、他県の施設等を参考にしながら本県関係者の意見や希望を集約しておく必要があると思います。その上で人口減少に伴う利用状況の変化や中長期的な整備・維持管理コストの見通し、市町村との連携や役割分担等を考慮しながら、調整していければと考えます。

### 【子ども達に様々な競技体験の機会を】

先日、あるスキー場に行ったところ、多くのスポーツ少年団がスキー教室を開催していました。ほとんどの子ども達は保護者の協力により現地集合のようでした。指導者の参加も多く、グループ毎に分かれた子ども達をつれて高齢者の方々も楽しみながら指導していたようでした。

最近、競技体験会を開催する競技団体が増えてきました。子ども達は、体験する機会さえ調整できれば色々なスポーツに親しむことができます。少し前だと体験にお金が必要だったり、教わりたくてもその機会がなかったものもありました。競技スポーツはもちろん、生涯スポーツとしても人気のあるもの、例えばゴルフ、ボウリング、トランポリン、クライミングなど「子供からできたらかっこいい」、「大人と一緒に楽しめるもの」などたくさんあります。

スポーツ少年団等の所属団体は、2競技以上に取り組む子供が増えるよう柔軟に考えてあげることが可能でしょうか？季節によって、冬はスキーやスケートなどの冬季競技に親しみ夏は他の競技、居住している地域・環境の中でできるものをやらせてあげてはどうでしょうか？

児童・生徒・保護者の皆さんは新しい競技と出会って、自らの競技選択の広がりや可能性を感じることでしょう。子ども達は、郷土の宝です。多くの体験から自分にあった競技、興味の持てる競技を選ぶ機会が多く与えられ、ジュニア世代の発掘・育成が行われていくよう、全県的な競技人口拡大へのご協力をお願いします。

### 【女性アスリートのサポート】

選手をささえる仕組みとして、本協会はスポーツ医・科学委員会女性アスリート支援部会のご協力により「女性アスリート相談窓口」を開設し、県スポ協ホームページ等からの相談に対し、各分野の専門家（医師・大学教授・スポーツファーマシスト・管理栄養士・アスレティックトレーナー）が、女性アスリートが抱える健康やスポーツに関する悩みに対応してきました。更に岩手医科大学附属病院には、「女性アスリートサポート外来」が設置され、女性アスリートの活動を幅広く支援しています。ぜひ、本協会ホームページ等からご活用いただけますようご案内します。

